

取扱説明書

改訂版②

エンジン除雪スノーパー

HG-SSG5562

ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してからお使いください。

燃料 無鉛レギュラーガソリン



エンジンオイルは
入っていません。



除雪作業中に問題あった場合でも、その場で解決策の動画をご覧頂ける様、本体にQRコードを貼っています。詳細は、P.5をご覧ください。



目次

はじめに	3
安全上のご注意 製品を長くご愛顧いただくために	
安全にお使いいただくために	4
除雪スノーパーの安全に係る事項 除雪スノーパーの操作時の安全に係る事項	
安全ラベル	5
各部の名称	6
主要諸元	7
組立て	8
梱包部品一覧表	8
下ハンドルの組立て	9
上ハンドルの組立て	9
走行ワイヤの取付け	10
ワイヤクリップの取付け	11
方向転換レバーの取付け	12
各部の取扱い	13
リコイルスターター	13
除雪クラッチレバー	13
除雪ブラシ	13
走行クラッチレバー	13
エンジンスイッチ	13
変速レバー	14
高さ調整ノブ	14
アクセルレバー	14
燃料ポンプ	14
方向転換レバー	15
チョークつまみ	15
燃料つまみ	15
エンジンオイル、燃料の入れ方	16
エンジンオイルの給油	16
燃料の給油	16
運転前の点検	17
エンジンオイルの点検・補充	17
燃料の点検・補充	17
走行クラッチレバー	18
除雪ブラシ	18
各部の緩みやガタツキの点検	18
各部の異音の点検	18
排気状態の点検	18

運転操作の仕方	19
エンジンのかけ方	19
エンジンの止め方	20
移動の仕方	21
方向転換の仕方	21
除雪作業の仕方	21
運転操作の仕方 オプション品	22
ブレードアタッチメントの取付け	22
スノーシュータアタッチメントの取付け	24
ソリの高さ調整	26
シュータに雪が詰まった場合	26
固い雪に除雪部が乗り上げた場合	26
湿った雪を除雪する場合	26
積雪量が多い場合	26
深い雪・重い雪の除雪時に、エンジンの回転数が 落ちた場合	26
運転操作の仕方	27
除雪作業の仕方（除雪ブラシ）	27
除雪作業の仕方（ブレード）	27
除雪作業の仕方（スノーシュータ）	28
シュータに雪が詰まった場合	29
除雪作業の停止	29
点検・整備の仕方	30
エンジンオイルの点検・交換	30
燃料の抜取り	32
点火プラグの点検・整備	32
タイヤの点検・整備	33
グリス・潤滑油の塗布	33
走行クラッチの張り調整	34
走行クラッチワイヤの交換	34
オーガベルトの交換	35
変速輪クッションの交換	35
除雪ブラシの点検	36
各部の緩みやガタツキの点検	36
オーガ・プロアの点検	36
シャーボルトの点検	36
各部の異音の点検	36
グリス・潤滑油の塗布	36
長期間使用しない時	37
故障と思ったら	38
お客様ご相談窓口	39

はじめに

このたびはエンジン除雪スノーパーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。
この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。
また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をした時に、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をした時に、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。



禁止

取扱においてその行為を禁止します。



指示

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。下記を熟読しご理解してからご使用ください。また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

除雪スノーバーの安全に係る事項



警告



指示

- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・回転しているオーガに接触すると負傷または死亡する恐れがあります。
- ・可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ・破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。
- ・機械カバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
- ・部品交換は、純正部品を使用してください。
- ・装置をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- ・定期点検整備を行ってください。
- ・子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

除雪スノーバーの操作時の安全に係る事項



警告



禁止

- ・指定された用途以外には使用しないでください。
- ・身体の調子が悪い時、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- ・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。
- ・正しい操作を知らない人、子供には操作をさせないでください。
- ・操作中は、子供を近づけないでください。操作者以外、装置へ近づけないでください。怪我の恐れがあります。
- ・砂利道は石が飛び出すなど危険です。除雪しないでください。
- ・雪の中に石が混入していると遠くまで飛ぶ事があるので十分注意してください。
- ・除雪部分、投雪口や回転部分に顔や手足、衣服などを近づけないでください。
- ・傾斜面を横切って除雪しないでください。
- ・坂道での除雪や停車はしないでください。



指示

- ・除雪する場所の異物はあらかじめ取除いておいてください。
- ・除雪部が異物に突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷していないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。
- ・除雪部分、投雪口などに詰まった雪を取除く時は、エンジンを停止し、誤ってエンジンがかからないようにしたうえで、回転が完全に止まった後に、雪かき棒を使って取除いてください。
- ・装置から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンを停止してください。
- ・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使ってください。
- ・滑りにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。
- ・坂道の走行には注意してください。
- ・後方へ走行する時は、足元及び背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。
- ・除雪時は操作に集中し、特にバック時は、滑らないよう足元にご注意ください。
- ・定期点検整備を行ってください。

安全ラベル



危険

火気
厳禁

- 給油口に火を近づけないでください。
- 給油中はエンジンを停止してください。

注意

外気が-10℃以下等の寒冷時は赤いボタン(高圧ポンプボタン)を2~3回押してからエンジンを起動して下さい。

注意

マニュアルに記載されたエンジンオイルをご使用ください。



このQRコードを読み取ることで、「組立て」「運転操作の仕方」「点検・整備の仕方」等を動画でご覧いただくことができます。また、「整備手順」や「取扱いの注意」等最新情報を随時追加・更新していきます。ぜひご利用ください。

※お持ちのスマートフォンにQRコードを読み取る機能が搭載されていない場合は、QRコードを読み取るためのアプリをダウンロードしてください。

※本取扱説明書と動画では、手順が異なる場合があります。ご了承ください。

各部の名称



主要諸元

型番	HG-SSG5562
除雪幅	620mm
変速機	前4段、後2段
エンジン型式	Loncin
馬力	5PS
総排気量	163 cm ³
始動方法	リコイルスターター
操作ハンドル	両手（片手自走、片手除雪）
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃費（1L 当たり）	約 80 分
燃料タンク容量	2.6L
エンジンオイル	5W-30
エンジンオイル容量	0.6L
駆動タイヤ	チューブレスタイヤ 13×4.10-6
重量	68kg
サイズ	L1600-1800×D650×H850-1050mm（ハンドルレバーまでの高さ）

●オプション品（ブレードアタッチメント）

型番	HG-SSG5562OP01
除雪幅	650mm
除雪高	395mm
重量	9kg
サイズ	W650×D120×H395mm

●オプション品（スノーシュータアタッチメント）






型番	HG-SSG5562OP02
除雪幅	540mm
除雪高	420mm
最大投雪距離	12m
投雪方向	190°
重量	24.4kg
サイズ	L430×W600×H800mm（シュータまで）

※ハイガー産業は、顧客満足度 100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

組立て

●梱包部品一覧表

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、すべてが完全であることを確認してください。
 2. 装置を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。
 3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。
- 不足している場合は、お手数ですがお買い求めの販売店までご連絡ください。

<p>A.本体</p> 	<p>B.下ハンドル</p> 
<p>C.工具★</p>  <p>C-1 C-2 C-3 C-4</p>	<p>D.方向転換レバー</p> 
<p>E.ノブナット、ワッシャ、ボルト</p>  <p>E-1 E-2 E-3</p>	

★付属の工具は、簡易的なものです。市販のスパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

組立て

警告

- ・ エンジンスイッチを OFF にしてから、作業を行ってください。
- ・ 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

注意

- ・ 作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。

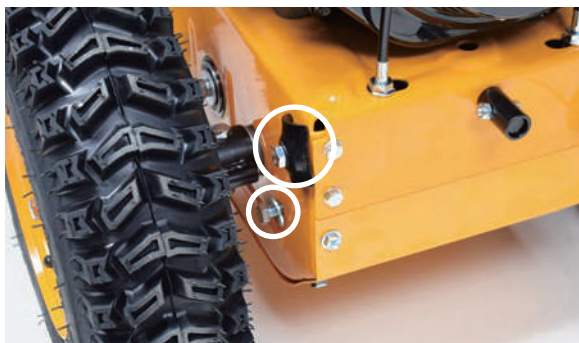


この QR コードを読み取ることで、「組立て」を動画でご覧いただくことができます。

★付属の工具は、簡易的なものです。市販のスパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

下ハンドルの取付け

- 1 本体に仮留めされている左右それぞれ 2 カ所のボルト、ワッシャを取外します。



- 2 下ハンドルの取付穴を本体取付穴に合わせ、取外したボルトで固定します。

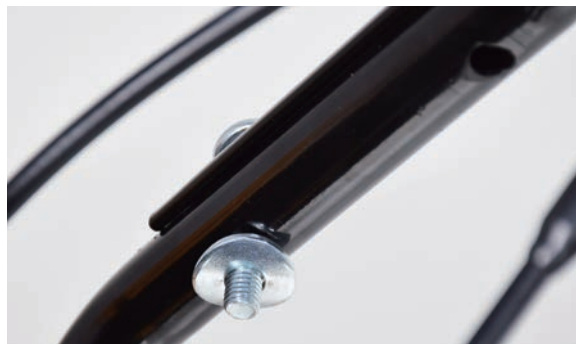


- 3 13mm のスパナでボルトを締付けます。



上ハンドルの取付け

- 1 上ハンドルは、赤い走行クラッチレバーを上側にして、左右それぞれ 2 カ所の取付穴を、下ハンドルの取付穴に合わせ、外側からボルトを挿込みワッシャを通します。



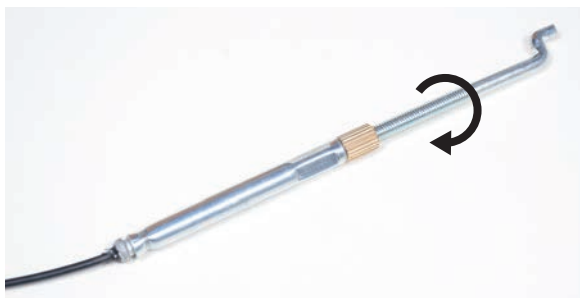
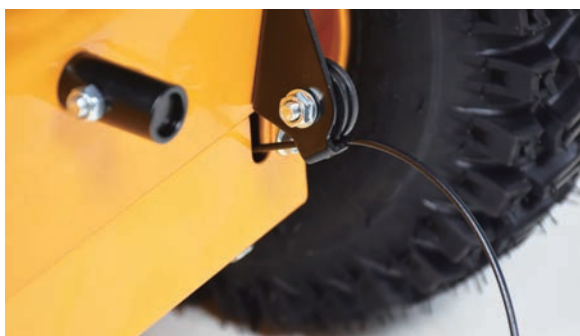
組立て

2 4カ所をノブナットで締付けます。



走行ワイヤの取付け

1 本体右下から出ているワイヤのフック部分を一旦外します。



2 走行クラッチレバー右側のワイヤ取付穴にフック先端を通します。



3 外したワイヤを接続します。

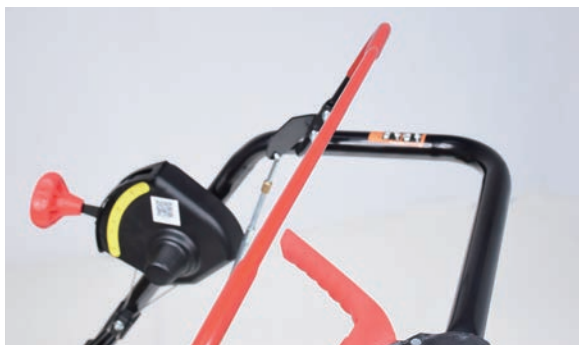


組立て

- 4 金色の留めナットを上まで上げます。



- 5 走行クラッチレバーを立てた状態で、ワイヤ下部を締めていきます。



- 6 ワイヤ下部を締付けた後手を放すと元に戻ってしまいますので、締付け後は戻らないように押さえながら、金色の留めナットを下まで降ろしていきます。

この段階では、ワイヤの張りは少し弱め（軽くピンと張った状態）にしておきます。



押さえながら、金色の留めナットを締める

ワイヤクリップの取付け

- 1 ハンドルに付いているワイヤクリップを一旦外します。



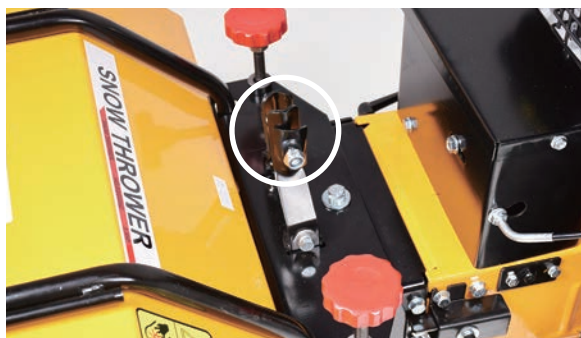
- 2 ワイヤクリップの溝にワイヤを通しハンドルに取付けます。



組立て

方向転換レバーの取付け

- 1** 方向転換レバー取付金具に仮留めしているボルト、ナットを取外します。



- 2** 下側のボルトを 13mm のスパナで緩めます。



- 3** 方向転換レバーを挿込み、取付穴を合わせます。



- 4** 上側のボルトを通しナットで仮留めし、下側の緩めたボルトを先に締付けます。



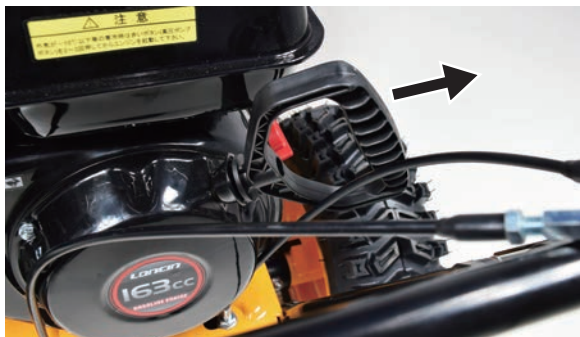
- 5** 最後に上側のボルト、ナットを締付ければ完了です。



各部の取扱い

リコイルスターター

リコイルスターターでエンジンを始動します。



- 1 リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐ引張ります。エンジンがかかるまで、数回繰り返します。

⚠ 注意

- ・リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- ・一度に6回以上は引張らないでください。
- ・引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- ・運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

除雪クラッチレバー

除雪ブラシを回転させる時に握ります。



レバーを握る

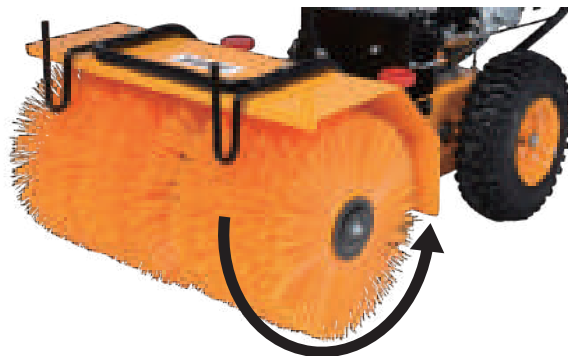
除雪ブラシが回転します。

レバーを放す

除雪ブラシが停止します。

除雪ブラシ

オーガ（除雪）クラッチレバーを握ることで、除雪ブラシを回転させ雪を払い飛ばします。



走行クラッチレバー

除雪機を走行させる時にレバーを握ります。



レバーを握る

除雪機が走行します。

レバーを放す

除雪機が停止します。

エンジンスイッチ

エンジン始動時にはONにします。



各部の取扱い

変速レバー

前進（4 段）、後進（2 段）の切替えや走行速度を調節する時に操作します。



レバーを F 側

前進スピードは 4 段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

レバーを R 側

後進スピードは 2 段階で、数字が大きくなるほどスピードが上がります。

⚠ 注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま変速レバーを操作すると、破損の原因になります。

高さ調整ノブ

高さ調整ノブを回すことで、積雪に合わせて除雪ブラシの高さを変えることができます。最大100mm上げることが可能です。



アクセルレバー

運転中に操作するとエンジンの回転数が変わります。



レバーを「かめ」側

エンジンの回転数が下がります。

レバーを「うさぎ」側

エンジンの回転数が上がります。
除雪作業は、「うさぎ」側で行います。

燃料ポンプ

燃料ポンプを 2～3 回軽く抵抗を感じる程度まで押すことで、燃料をキャブレターに行きわたらせます。（外気温が氷点下で初回のみ）

注）押しすぎるとエンジンは始動しません。



各部の取扱い

方向転換レバー

方向転換レバーで除雪ブラシを曲がりたい方向へ向けます。



チョークつまみ

エンジンが冷えている時は、チョークつまみを左に合わせます。



⚠ 注意

- ・エンジン始動後は、チョークつまみを必ず右に戻してください。

燃料つまみ

燃料つまみを ON (右) にすると、エンジンに燃料が供給されます。



エンジンオイル、燃料の入れ方

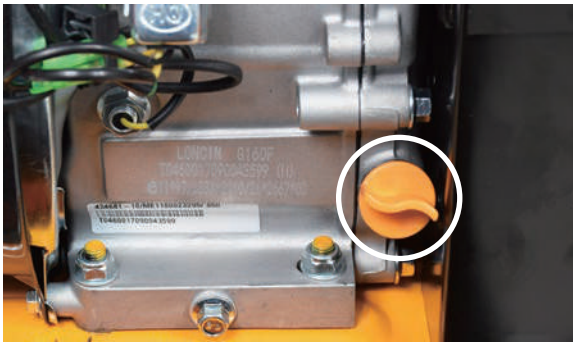
エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

- 2 車体を水平な場所に移動させます。
- 3 オイル給油キャップを外し、オイルゲージを布などで拭取ります。
- 4 エンジンオイルを給油します。
注) エンジンテストを行っているため、多少オイルが残っている場合があります。オイルゲージを確認しながら少しずつ給油してください。



- 5 補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

⚠ 注意

- ・エンジンオイルを入れ過ぎると、エンジンはかかりにくくなります。

燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	2.6L

- 2 燃料給油キャップを開け、満タンレベルゲージを超えないように給油します。



満タンレベルゲージ

- 3 補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

運転前の点検

警告



- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・ハイオクガソリンは使用しないでください。

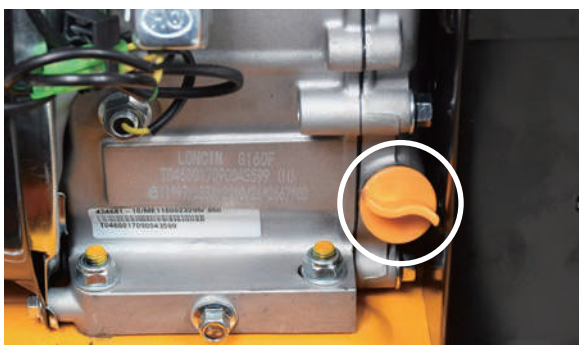


- ・燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

エンジンオイルの点検・補充

エンジンオイル量・汚れを点検します。
 オイル交換については、「点検・整備の仕方 P.30」を参照ください。

- 1 本体を水平な場所に移動させます。
- 2 オイル給油キャップを外し、オイルゲージを布などで拭取ります。
- 3 オイル給油キャップを取付け一旦締付け、再度外します。



- 2 オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



- 3 オイル量が少ない時は、新しいエンジンオイルを補充します。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

- 4 補充後、給油キャップを確実に閉めてください。

注意

- ・エンジンオイルを入れ過ぎると、エンジンはかかりにくくなります。

燃料の点検・補充

燃料（無鉛レギュラーガソリン）の量を点検します。

- 1 燃料給油キャップを外し、液面を見て残量を確認します。少ないようであればガソリンを少しずつ給油します。



使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク	2.6L

運転前の点検

走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを握ったり放したりし、ワイヤの緩みや破損がないか確認します。

緩みがある場合は、調整をします。

ワイヤの調整については、「点検・整備の仕方 P.34」を参照ください。



除雪ブラシ

除雪ブラシの破損や異物が挟まっていないか確認します。破損の場合は交換が必要になります。

異物は取除きます。



各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。

ボルト、ナット等の緩みであれば、締付けます。

不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

各部の異音の点検

エンジン始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

排気状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

運転操作の仕方

警告

- 燃料の臭いがある場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- 運転中に回転部及び可動部に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻込まれ重大な事故の恐れがあります。
- 周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。



このQRコードを読み取ることで、「運転操作の仕方」を動画でご覧いただくことができます。

エンジンのかけ方



1 エンジンスイッチを ON にします。



2 黒い燃料つまみを右いっぱい (ON) にします。



3 白いチョークつまみを左に合わせます。



4 アクセルレバーを「かめ」と「うさぎ」の中間にします。



運転操作の仕方

- 5** 外気温が氷点下の場合、燃料ポンプを 2～3 回軽く抵抗を感じる程度まで押します。

注) 押しすぎるとエンジンは始動しません。



- 6** リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真つすぐ引張ります。



⚠ 注意

- ・リコイルスターターロープを最後まで引出さないでください。
- ・一度に 6 回以上は引張らないでください。
- ・引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。
- ・運転中はリコイルスターターハンドルに手を触れないでください。

- 7** リコイルスターターを引いた時に、初爆（ブルンという爆発音）があれば、チョークつまみを右に戻し、リコイルスターターを引きます。リコイルスターターを引いた時に、そのままエンジンがかかった時も、チョークつまみを右に戻します。



⚠ 注意

- ・エンジン始動後は、チョークつまみを必ず右に戻してください。

- 8** エンジンがかかったらアクセルレバーを「うさぎ」に合わせます。

除雪作業をする際は、常に「うさぎ」側にします。

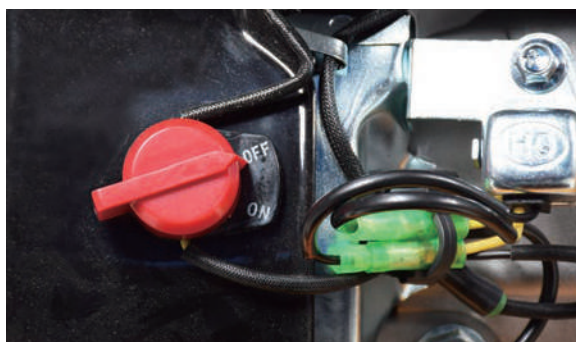


エンジンの止め方

- 1** アクセルレバーを「かめ」に合わせます。



- 2** エンジンスイッチを OFF にします。



- 3** 黒い燃料つまみを左いっぱい (OFF) にします。

⚠ 注意

- ・除雪機は、水平な場所に駐車してください。
- ・作業終了後、除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してください。

運転操作の仕方

移動の仕方

- 1 P.19を参照にエンジンを始動します。
- 2 高さ調整ノブを回し、除雪ブラシの高さを上げます。



- 3 変速レバーを「F1」から徐々に最適な速度の位置にします。



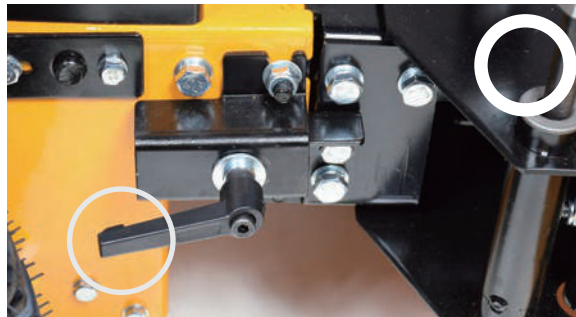
⚠ 注意

- 変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- 走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

方向転換の仕方

方向転換レバーで、除雪ブラシを曲がりたい方向へ向けることができます。

- 1 ノブレバーの先端の位置が、タイヤ側にあることを確認します。
除雪ブラシ側にあると、方向転換した際に干渉しますので、タイヤ側に向けてください。



- 2 走行レバーを放して、停止します。
方向転換レバーを押し下げ、除雪ブラシを曲が
- 3 この状態で、走行レバーを握ると、除雪機は、向けた方向に弧を描くように曲がります。



⚠ 注意

- 方向転換レバーを操作する時は、必ず走行レバーを放して停止してください。
- 走行前、走行中は、本機が進む方向に十分注意してください。

運転操作の仕方 オプション品

警告

- ・ エンジンスイッチを OFF にしてから、作業を行ってください。
- ・ 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

注意

- ・ 作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。



この QR コードを読み取ることで、「運転操作の仕方」を動画でご覧いただくことができます。

★付属の工具は、簡易的なものです。市販のスパナ等をご用意いただくと作業効率が良くなります。

ブレードアタッチメントの取付け

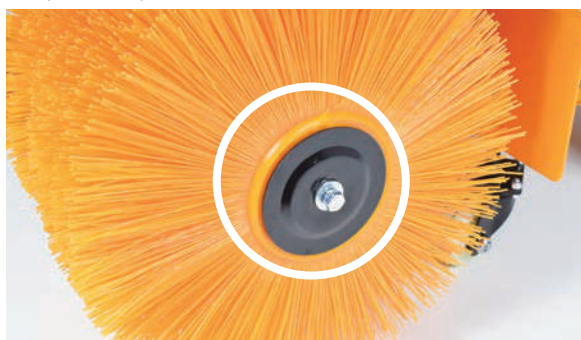
雪を押し除雪するアタッチメント（セット品又はオプション品）で、雪を飛ばさずに除雪を行いたい場合や、投雪が困難な水分を多く含んだ重い雪の除雪作業に適しています。

■準備するもの

ブレードアタッチメント(本体及び付属品)
HG-5562OP01



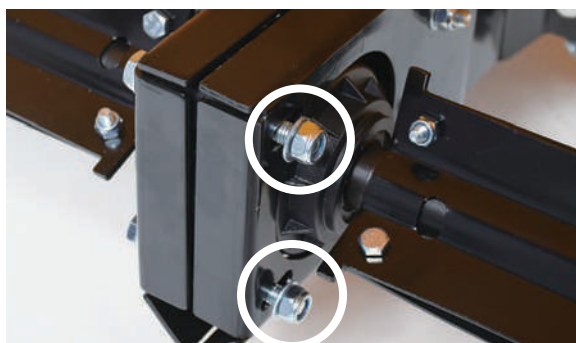
- 1 13mmのスパナでボルトを緩め、ブラシカバーを外します。



- 2 ブラシとカラー（スペーサー）をすべて外します。



- 3 上下のボルト、ナットを緩めます。上のボルト、ナットは外してもかまいません。



- 4 ブレード固定金具の固定ピンを抜きます。（後でもかまいません）

運転操作の仕方 オプション品



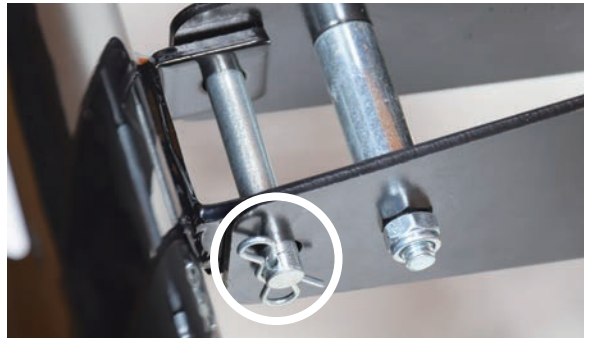
- 5** ブレード固定金具を下のボルトと上のボルトに引っ掛け、軽く締めます。（ワッシャは外側です。）



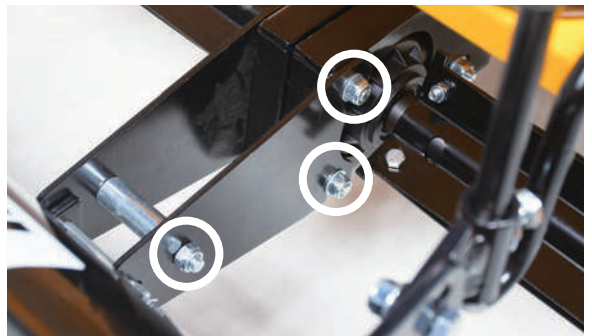
- 6** ブレードのパイプ部分を本体のブレード取付アームに挿入します。



- 7** 固定ピンを挿込み、スナップピンで固定します。



- 8** 各部増し締めします。



- 9** ボルトを締め付け、緩みナットを締め付け、アタッチメント部のボルト、ナットを締め付けます。

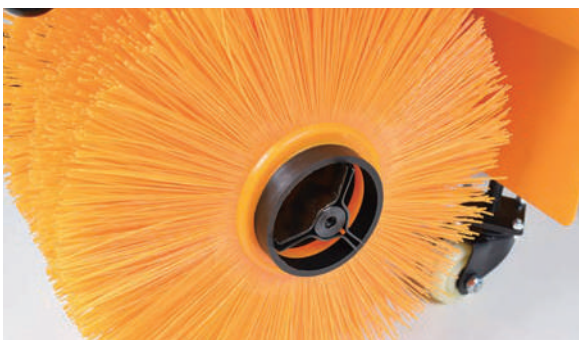
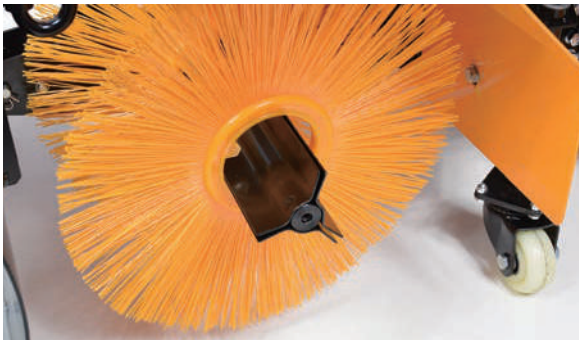


- 10** ブラシを取付けます。はじめに角度の付いたブラシをはめます。



運転操作の仕方 オプション品

- 11** 平らなブラシ、カラー、平らなブラシ、カラーの順で取付け、最後は平らなブラシで終わります。



- 12** ブラシカバーを取付け、13mmのスパナでボルトを締付けます。



スノーシュータアタッチメントの取付け

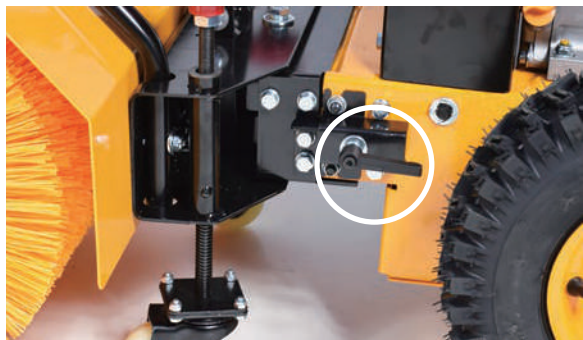
積もった雪を回転式オーガアタッチメントで掻き集めて吸い込み、煙突状のシュータ（投雪口）から吹き飛ばします。

- 準備するもの
オーガアタッチメント(本体及び付属品)
HG-5562OP02

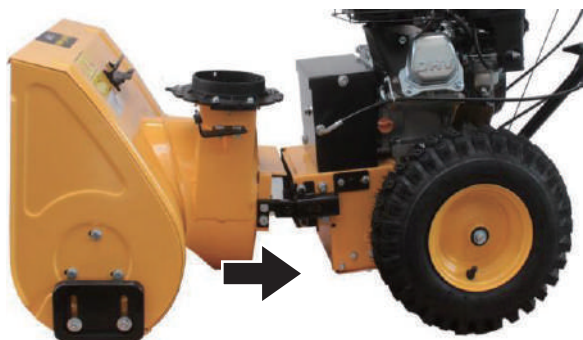


運転操作の仕方 オプション品

- 1** 除雪ブラシユニットを固定している左右のノブレバーを外し、除雪ブラシユニットを本体から切り離します。



- 2** スノーシュータ&オーガアタッチメントを本体の取付金具に挿入します。



- 3** オーガ側駆動軸に本体側駆動軸をはめ込みます。



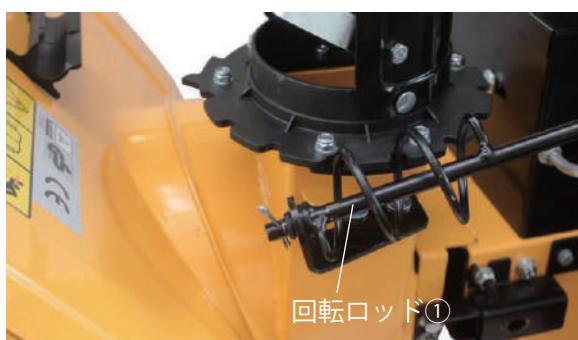
- 4** ノブレバーでしっかりアタッチメントを固定します。



- 5** シュータ(投雪口)を本体の投雪口台に乗せ、シュータ(投雪口)を固定する穴3カ所を合わせ、内側からボルトを通し、外側からナットを締めます。



- 6** シュータ(投雪口)回転ロッド①を受けに通し、割りピンを挿入して固定します。



- 7** ロッドサポートをハンドルに取付け、シュータ(投雪口)回転ロッド②をロッドサポートに通し、①と連結し、ボルトを通してナットを締めます。



ソリの高さ調整

ソリは、高さを調整することで路面状況にあった除雪ができます。

- 1 オーガーハウジングの下に枕木等を挿込み浮かせます。
- 2 ソリのボルトを緩め、最適な高さに調整します。



	オーガーハウジング下端と路面の間隙
砂利などが多い路面	広くする
普通路	5mm 程度
圧雪路	狭くする

⚠ 注意

- ・オーガーハウジング下端と路面の間隙を狭くし過ぎると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付けたりすることがあります。また、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前に進むことがあります。

シュータに雪が詰まった場合

⚠ 警告

- ・シュータに詰まった雪を除去する時は、エンジンを停止し、オーガの回転が止まってから、雪かき棒で雪を取除いてください。
- ・エンジンが回っている時は、シュータに手を絶対に入れないでください。怪我をする恐れがあります。

- 1 エンジンを停止させ、オーガの回転が完全に停止したことを確認します。
- 2 シュータ内に詰まった雪を雪かき棒で取除きます。※詰まったまま使用すると、ベルトが伸びたり切れたりする可能性があります。

固い雪に除雪部が乗り上げた場合

前・後進を繰り返すことで、平らに除雪できます。

湿った雪を除雪する場合

湿った雪の場合は、シュータに雪が詰まりやすくなります。

積雪量が多い場合

積雪量が多く、オーガハウジングよりも雪の高さが高い場合は、段階的に除雪を行います。

オーガハウジングを少し上げたり、ソリの高さ調整をします。

また、雪壁の切削量が大きき場合は、シャーボルトが折れることがあるので、進入速度には注意が必要です。

深い雪・重い雪の除雪時に、エンジンの回転数が落ちた場合

- 1 エンジン回転が回復するまで、走行クラッチレバーを放します。

⚠ 注意

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

- 2 オーガハウジング内の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら、走行クラッチレバーを握り前進します。

運転操作の仕方

警告

- ・シュータを人や自動車、建物に向けないでください。
- ・オーガに異物が巻付いた時は、エンジンをすぐに停止し、異物を取除いてください。
- ・除雪機に破損がないが確認し、破損が確認された場合は完全に修理してからご使用ください。

除雪作業の仕方(除雪ブラシ)



- 1 除雪ブラシの高さ調整を最適な高さに調整します。(P.14 参照)
- 2 エンジンを始動します。(P.19 参照)
- 3 アクセルレバーでエンジンの回転数を上げます。(うさぎ側) (P.20 参照)
- 4 オーガ(除雪)クラッチレバーをゆっくり握るとオーガが回転します。



- 5 変速レバーが「F1」にあることを確認し、走行クラッチレバーをゆっくり握ります。その後、変速レバーで速度を調整します。走行しない場合は、ワイヤの調整をします。(P.34 参照)



注意

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

除雪作業の仕方(ブレード)



- 1 除雪ブラシの高さ調整ノブで上げます。(P.14 参照)
- 2 エンジンを始動します。(P.19 参照)
- 3 アクセルレバーでエンジンの回転数を上げます。(うさぎ側) (P.20 参照)
- 4 変速レバーが「F1」にあることを確認し、走行クラッチレバーをゆっくり握ります。その後、変速レバーで速度を調整します。走行しない場合は、ワイヤの調整をします。(P.34 参照)



運転操作の仕方

除雪作業の仕方(スノーシュータ)



1 シュータ(投雪口)回転ロッドを操作し、投雪方向を調整します。

2 シュータ角度調整ノブナットを操作し、投雪距離を調整します。

シュータ角度調整ノブナット



シュータ(投雪口)回転ロッド

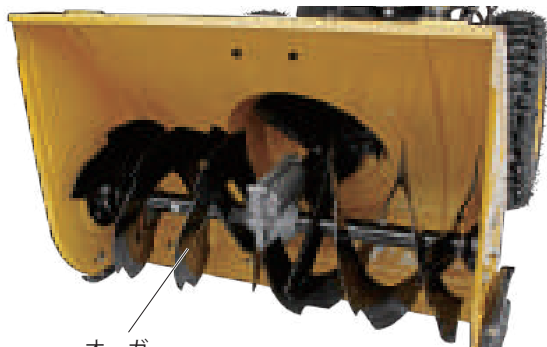
3 エンジンを始動します。(P.19 参照)

4 アクセルレバーでエンジンの回転数を上げます。(うさぎ側) (P.20 参照)

警告

・投雪方向の安全を確認してから、オーガ(除雪)クラッチレバーを握ってください。

5 オーガ(除雪)クラッチレバーをゆっくり握るとオーガが回転します。



オーガ

6 変速レバーが「F1」にあることを確認し、走行クラッチレバーをゆっくり握ります。その後、変速レバーで速度を調整します。走行しない場合は、ワイヤの調整をします。(P.34 参照)



注意

- ・変速レバーの操作は、走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを放してから行ってください。
- ・走行クラッチレバーや除雪クラッチレバーを握ったまま変速レバーを操作すると、変速輪クッションの破損の原因になります。

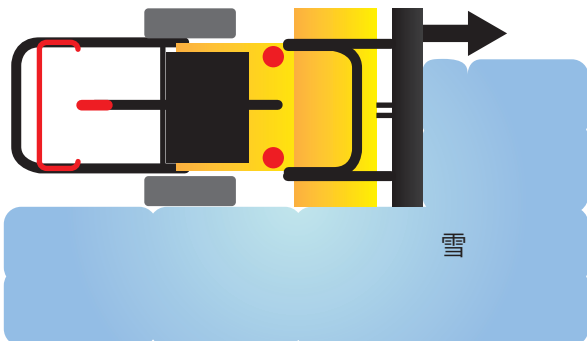
ワンポイント

除雪作業は低速「F1」で行うのがコツです。走行速度が速すぎると、オーガハウジングに雪がいっぱいになり、投雪が間に合わず雪が詰まってしまう。

運転操作の仕方

ワンポイント(ブレード)

ブレードにかかる雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。



ワンポイント(スノーシュータ)

除雪作業は、普通に歩く速度より「ゆっくり」行うのがコツです。走行速度が速すぎると、雪がいっぱいになり、投雪が間に合わず雪が詰まってしまいます。

①詰まりそうになったら一旦後進し、また前進させます。これを繰り返すことで、雪を詰まらせずに除雪することができます。



※写真は他機種です。

②雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。



適した雪質

本機は固まった雪や重たい雪の除雪には不向きです。また、湿った雪の場合は、シュータに雪が詰まりやすくなります。

新雪	しまった雪	固まった雪	みぞれ
◎	◎	-	-

シュータに雪が詰まった場合

警告

- ・シュータに詰まった雪を除去する時は、エンジンを停止し、オーガの回転が止まってから雪かき棒で取除いてください。
- ・エンジンが回っている時は、シュータに手を絶対に入れないでください。怪我をする恐れがあります。

- 1 エンジンを停止させ、オーガの回転が完全に停止したことを確認します。
- 2 シュータ内に詰まった雪を雪かき棒で取除きます。※詰まったまま使用すると、ベルトが伸びたり切れたりする可能性があります。

除雪作業の停止

- 1 P.20の要領で停止をします。
- 2 作業終了後は、本体に付着した雪を取除き拭取ってください。

注意

- ・雪や水分が付着したままにすると、凍結やサビを起し、故障の原因になります。
- ・屋外に保管しないでください。凍結、劣化により故障や本機の寿命を短くする恐れがあります。

点検・整備の仕方

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。

除雪期前	除雪期	除雪期後
<p>▼シーズン前点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイルの交換 P.30点火プラグの交換P.32ベルト点検・交換のP.35タイヤの点検P.33	<p>▼初回20時間点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイル交換P.30 <p>▼運転前点検</p> <ul style="list-style-type: none">エンジンオイルの点検・補充P.17燃料の点検・補充P.17オーガ・ブロアの点検 P34走行クラッチの点検 P.18各部の緩みやガタツキの点検 P.18各部の異音の点検 P. 18排気状態の点検 P. 18	<p>▼シーズン後点検</p> <ul style="list-style-type: none">燃料の抜き取りP.32各部グリス・潤滑油の塗布P.33

警告

- 安全を確保し作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管してください。



このQRコードを読み取ることで、「点検・整備の仕方」を動画でご覧いただくことができます。

エンジンオイルの点検・交換

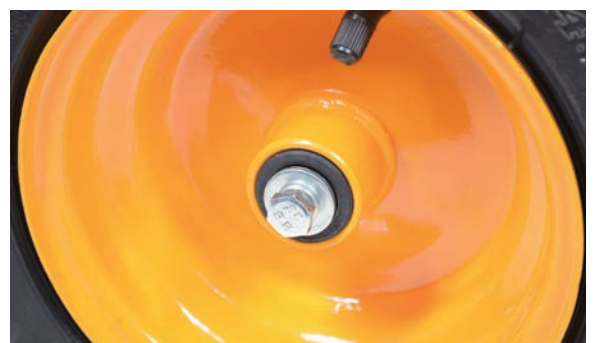
【エンジンオイルの交換】

初回 20 時間、以降 50 時間毎にエンジンが冷えた状態で行ってください。

■エンジンオイル交換の手順

1 廃油受け、厚紙、枕木等を準備します。

2 タイヤのボルトを 13mm のスパナで緩めます。



点検・整備の仕方

- 3** 本体下に枕木等を入れ、タイヤを浮かせます。
タイヤのボルトを外し、タイヤを取外します。



- 4** オイル給油キャップを緩めます。

- 5** 下に廃油受けを置き、ドレンボルト下に厚紙等を敷き、ドレンボルトを10mmのスパナで反時計回りに回し緩めると、オイルが出てきます。



- 6** 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。

- 7** 市販のオイルチェンジャーで抜くことも出来ます。
※操作方法は、オイルチェンジャーの取扱説明書に従ってください。



- 8** 市販のオイルジョッキを用意します。



- 9** 新しいエンジンオイルをレベルゲージの中央までゆっくり少しずつ入れます。



推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

- 8** 補給後、オイル給油キャップを確実に閉めてください。

点検・整備の仕方

燃料の抜取り

- 1 燃料タンクのキャップを外し、燃料を手動のポンプ等で抜きます。



- 2 燃料を受ける容器を用意します。

- 3 O部分のネジを緩めることで、キャブレターの燃料を抜くことができます。



- 4 燃料を抜き終わったら、緩めたネジは、必ずしっかり締めてください。

点火プラグの点検・整備

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。
※エンジンが冷えている状態で行ってください。

■使用工具

プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ

■点検・清掃の仕方

- 1 金属の点火プラグキャップを持って引抜きます。
※コードを持って引抜かないでください。



- 2 点火プラグをプラグレンチで取外します。（反時計回り）



- 3 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



点検・整備の仕方

- 4** プラグキャップにプラグを確実にはめ、スイッチを ON にし、プラグ先端を金属部に当てながらリコイルスターターを引きます。この時プラグ先端から火花が出れば、正常です。
※手袋着用で行ってください。



交換時期	250 時間運転毎
適応	BPR5ES(NGK)
点火プラグ	BPR7ES(NGK)

- 5** 取外しと逆の手順で取付けます。

タイヤの点検・整備

タイヤの傷・摩耗を点検します。

■点検手順

- 1** 目視にて破損や亀裂がないか確認します。パンク・亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。



- 2** タイヤの空気圧を確認します。

空気圧	1.5kgf/cm ² (150Kpa)
-----	---------------------------------

警告

- 回転部分の点検は、絶対にエンジンがかからないことを確認してから行ってください。また、軍手などの絡まりやすいものの着用は絶対避けてください。

グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撹動部を清掃し、グリスを補給します。可動部分は、潤滑油を塗布します。
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

- 1** グリス、グリスガンを準備します。

- 2** グリスニップル（頭径 6.5mm）からグリスを充填します。



- 3** シュータの撹動部やワイヤ等の可動部等に潤滑油やグリスを塗布します。



点検・整備の仕方

走行クラッチの張り調整

走行クラッチレバーを握っても走行しない場合は、ワイヤの張りを調整します。

- 1 走行クラッチレバーを立てた状態にします。



- 2 金色の留めナットを緩め、ワイヤ下部を締付けていきます。ワイヤ下部は手を放すと元に戻ってしまいますので、戻らないように押さえながら、金色の留めナットを下まで降ろし締付けます。
※ワイヤを張り過ぎると切れることがありますので、ご注意ください。



ここを押さえながら、金色の留めナットを締める

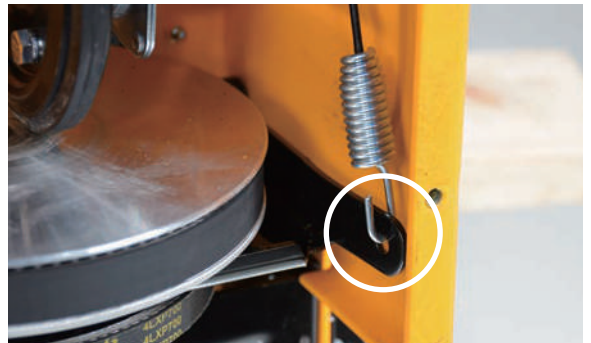
走行クラッチワイヤの交換

予め、本体下のカバーを外しておきます。

- 1 走行クラッチワイヤの金色の留めナットを緩め、①を緩めワイヤを外します。



- 2 本体裏側のワイヤ先端のフックを外します。
※写真は、分かりやすいように本体を立てていますが、オイルや燃料漏れの可能性がありますので、本体を立てずに、下に枕木等を敷いて行ってください。



- 3 ナットを緩め、ワイヤ外れ留め緩めてワイヤを外します。



- 4 ワイヤの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

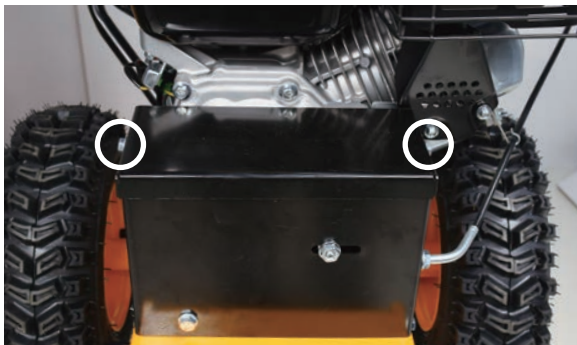
点検・整備の仕方

オーガベルトの交換

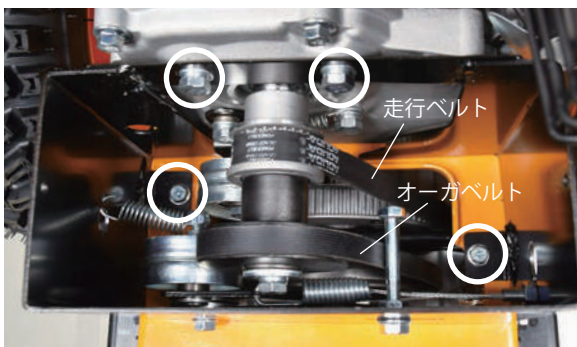


このQRコードを読み取ることで、「点検・整備の仕方」を動画でご覧いただくことができます。

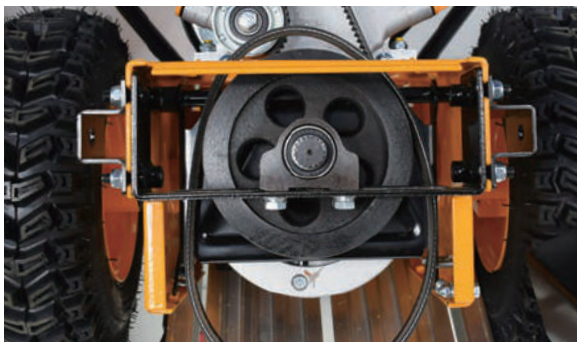
- 1 ベルトカバーの左右のボルトを外します。



- 2 4カ所のボルトを外します。



- 3 ベルト上側を外します。



- 4 4カ所のボルトを緩め、ベルトを引き抜きます。



- 5 ベルトの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

変速輪クッションの交換

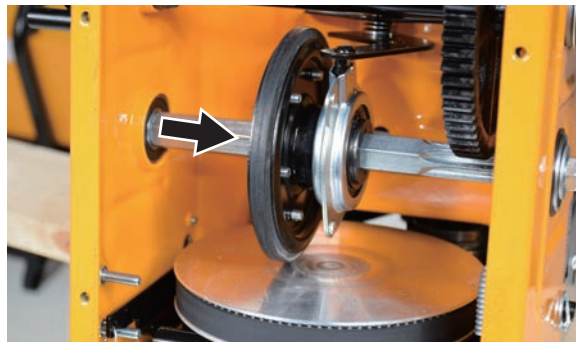
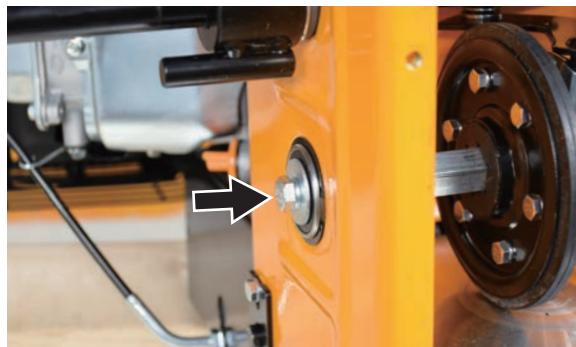


このQRコードを読み取ることで、「点検・整備の仕方」を動画でご覧いただくことができます。

- 1 左右のタイヤを外します。

- 2 ボルトを緩め、ボルトをプラスチックハンマー等で叩くことにより、六角の軸の左側が外れるので、変速輪クッションを取外します。

※写真は、分かりやすいように本体を立てていますが、オイルや燃料漏れの可能性がありますので、本体を立てずに、下に枕木等を敷いて行ってください。



点検・整備の仕方

- 3** 変速輪クッションのボルト 6カ所を外し、六角軸を押さえるラバー部分をプラスチックハンマー等で少し叩くことで、カバーが外れゴムを外すことができます。



ボルトを外した後
この部分をプラスチックハンマー等で叩く

警告

- ・回転部分の点検は、絶対にエンジンがかからないことを確認してから行ってください。
また、軍手などの絡まりやすいものの着用は絶対避けてください。

除雪ブラシの点検

- 1** 除雪ブラシに著しい摩耗や破損がないか確認します。



各部の緩みやガタツキの点検

各部の緩みやガタツキがないか点検します。
ボルト、ナット等の緩みであれば、締付けます。
不具合の箇所が分からない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

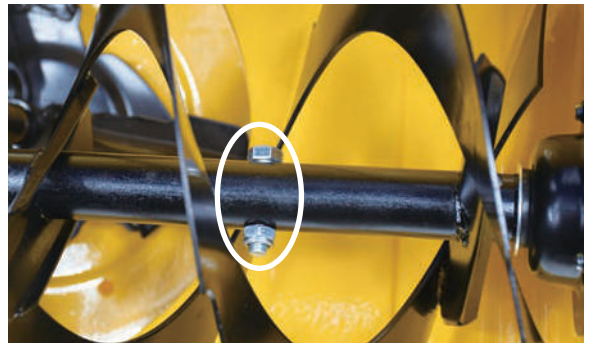
オーガ・ブローアの点検

- 1** オーガやブローア部分に破損や変形、異物の挟込みがないか確認します。



シャーボルトの点検

- 1** シャーボルトに折れや亀裂がないか確認します。破損がある場合は新品と交換します。交換は、ナットを外し、シャーボルトを抜取ります。取付は、逆の手順です。



各部の異音の点検

始動後、エンジン、その他の部位から異音がないか点検します。異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

グリス・潤滑油の塗布

本機の使用後は回転部分・撹動部を清掃し、グリスを補給します。可動部分は、潤滑油を塗布します。
※グリスは市販のリチウムグリスをお使いください。

長期間使用しない時

除雪機を長期に渡り使用しない時は、次のお手入れを行ってください。

- 1 保管する時は、平坦で堅い地面に水平に置てください。
- 2 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。(P.23参照)
- 3 又は、エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。

- 4 各部のよごれを落とし、水分が残らないよう、きれいに清掃します。
- 5 各部のボルト類の破損、腐食、緩みを点検します。
- 6 防錆、潤滑油を塗布します。
- 7 本体にカバーをかけ、湿気の少ない換気の良い場所に保管してください。

警告

- エンジンはOFFにして作業を行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対におやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

故障と思ったら

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない ※火花の確認方法は、P.33 参照	始動スイッチボタンの不良	交換
	点火プラグ不良	交換 (P.32 参照)
	点火プラグ・キャップ接続不良	確実に接続
	イグニッションコイルの不良	交換
	オイルが少ない	オイル追加 (P.17 参照)
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる (P.17 参照)
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換
	燃料タンクの錆び又は、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレター詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除
	オイルの入れすぎ	オイル交換 (P.30 参照)
	オイルにガソリンが混ざっている	オイル交換 (P.30 参照)

●エンジンはかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる

症状	原因	対処
	エアフィルタの汚れ	清掃又は交換
	キャブレターの調整不良	調整
白煙が出る	オイルの入れすぎ	オイルを抜く

●うまく除雪作業ができない

症状	原因	対処
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	詰まった雪を取除く
雪を集められない	オーガに雪が付着している	付着した雪を取除く
オーガが回転しない	シャーボルトが折れている	交換 (P.36 参照)
	オーガベルトが切れている	ベルトの交換 (P.25 参照)
	シャフト部の接続不良	確実に接続する (P.25 参照)
雪の飛びが悪い	エンジンの負荷が高い	走行速度を下げる

●走行しない

症状	原因	対処
前後進しない	タイヤに動力が伝わるまでに少し時間がかかる	少し待つ
全く動かない	走行クラッチワイヤの緩み・切れ	調整・交換 (P.34 参照)

本規約は、ハイガー産業株式会社(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヶ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定が出来ない場合、保証が受けられない可能性がございます。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
 - (11) 機能上影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
 - (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
 - (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーペン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡いただきたく存じます。
またはお近くの修理協力店へご連絡くださいませ。
症状・使用状況を伺い、お手順方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料や水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合がございます。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただく場合がございます。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する場合がございます。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しできない場合がございます。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合がございます。
- ・無在庫転売(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合がございます。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

お客様ご相談窓口

故障部品をお客様で交換される場合

まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

④送料お客様ご負担で、代替部品を発送致します。

ハイガー産業または販売・修理店

- ②受付
- ③故障内容の確認

故障部品をメーカーで修理する場合

ネット購入や弊社で電話・FAXにてご購入の場合は、弊社にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

②送料お客様ご負担で故障装置を発送してください。

⑤お見積り提示。

⑥送料お客様ご負担で、故障装置を発送いたします。

ハイガー産業

- ③受付
- ④故障内容の確認
- ⑥お見積り了承
- ⑦故障装置の修理

故障部品を販売・修理店で修理する場合

まず、ご購入された販売・修理店にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。

お客様

①故障の状況をお電話でご連絡ください。その際、持ち込み修理*1か、引取り修理*2か、出張修理*3かを相談させていただきます。

⑤持ち込み修理の場合、修理完了後ご来店ください。引取り修理の場合は、修理完了後お届け致します。
※ご希望に応じて相談させていただきます。

販売・修理店

- ②受付
 - ③故障内容の確認
 - ④故障装置の修理
- *1 お客様ご自身が販売・修理店に製品を持ち込むことをいいます。
*2 販売・修理店がお客様のご自宅まで製品を引き取りに行くことをいいます。
*3 販売・修理店がお客様のご自宅まで行き、その場で修理を行うことをいいます。

修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記を事項ご連絡ください。

- ①ご注文番号
- ②商品名
- ③商品の型番
- ④故障の状況
- ⑤購入サイト、年月日
- ⑥お名前
- ⑦ご住所
- ⑧電話番号

修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

- お問い合わせ先：下記カスタマー・サポート・センター

販売・修理店

販売・修理店は随時増えています。販売・修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

オフィシャルサイト ▶ <http://www.haige.jp/agency.html> ハイガー修理 検索

本店サイト ▶ <https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト ▶ <http://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/after.html>

ヤフーサイト ▶ <https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

※ハイガー産業は、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。

「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。



24時間365日
無休受付



カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口

<https://haige.jp/c/>



ハイガー産業 株式会社
〒370-0503
群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3
ハイガー 検索
<http://www.haigeshop.net/>



緊急の方へ

電話窓口

ご協力をお願い

重要なお問い合わせ

お電話が殺到しており、繋がりにくい状態が続いております。ご迷惑をおかけしますが、緊急の場合を除き、インターネットからお問合せください。お電話を頂く場合は、上記の URL のカスタマー・サポート・センターの「お問合せフォーム」を必ずご参考のうえ、お問い合わせください。ご対応に必要な事項が記載されています。

0276-55-2275

○受付：月～金曜日 10:00～15:00 ○受付中止：月～金曜日 12:00～12:50
◎定休日：土曜日、日曜日、お盆、年末年始、GW